



TITLE:

# ラウンド・テーブル・ディスカッション(2): Male fertilityの諸問題

AUTHOR(S):

片山, 喬

---

CITATION:

片山, 喬. ラウンド・テーブル・ディスカッション(2): Male fertilityの諸問題. 泌尿器科紀要 1988, 34(11): 1929-1929

ISSUE DATE:

1988-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119777>

RIGHT:

## ラウンド・テーブル・ディスカッション (Ⅱ)

### Male fertility の諸問題

司会：富山医科薬科大学医学部泌尿器科学教室（主任：片山 喬教授）

片 山 喬

### ROUND TABLE DISCUSSION (II) SEVERAL PROBLEMS IN MALE FERTILITY

Takashi KATAYAMA

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University  
(Director: Prof. T. Katayama)*

#### INTRODUCTION

Recently, various problems about male fertility have been solved with the rapid advance of endocrinology and molecular biology.

In this round-table discussion, I asked the specialists active in the first line to make presentations about the results of male fertility obtained by using endocrinology, histology and analyses of sperm and seminal fluid, and the present situation of the diagnosis and treatment of male infertility.

The foregoing papers describe the present status of the diagnosis and treatment and future problems about male infertility and I am sure they give valuable knowledge for routine medical examination and treatment.

(Acta Urol. Jpn. 34: 1929, 1988)

#### 司会のことば

近年内分泌学や分子生物学などの急速な進歩に伴い male fertility に関する種々の問題が明らかにされてきたようにみえる。また産婦人科領域では体外受精技術の進歩によりこれまで受胎→出産の不可能であった症例にも妊娠成立が期待されるようになっていく。しかし泌尿器科の臨床における男性不妊の原因診断や治療による妊娠成立ということになると決して満足すべき状態にあるとは言えない。本学会大田黒会長がこの点に着目され、このラウンド・テーブル・ディスカッションを企画されたことは誠に時宜を得たものと敬意を表する次第である。

本ラウンド・テーブル・ディスカッションでは male fertility を内分泌、組織学、精子、精漿などの面から分析し、また男性不妊の診断と治療についての現況を、現在第一線で御活躍中の専門家に発表して頂くこととした。

その内容についてはつぎの各論文をお読み頂きたいが、ディスカッションの中で各演者にとくに治療により妊娠成立を期待できるものはどういう症例かをお話し頂いており、一つの結論を出された演者もある。いずれにせよ、ここに示された内容はわが国における男性不妊の診断と治療の現在の動向と今後の問題点を示しており、明日からの診療にも役立つものと確信している。

(1988年7月12日受付)